



書く力は生きる力

この子どもにもう少しことばの力があつたらと思うたびに、わたしが教師になりたての、公立小学校にいた時の子どもを思い出します。日記をクラスの子どもに書かせることにしたのですが、一人だけ書かない子どもがいて、3年生にもなるのにこれはいけないと思い、放課後書かせて家に帰すことにしました。初めは書く題材が見つからないので、一緒に遊んで、それをことばで話す口頭作文をしばらく続け、そのあと音声を書き起こして書くことにしました。その子どもは自閉的傾向があり、口頭作文も「うっ」「あっ」が出る程度で語や文として聞き取れないのですが、そのうち、書くことが話すことより上回るようになりました。それからは、家で書かせることにして、子どもは毎日嬉しそうに日記を見せにきました。一人ぼっちだったのが休み時間には友達と遊ぶようになり、あの日もいつのもようにかくれんぼをしていると、「せんせい、みいつけた」の「うっ」が、「せんせい、みいつけた」の声になって聞こえてきました。それからコップにたまっていた水があふれたかのようにことばが出始め、友だちと話し、授業にも参加し、子どもは書く力を生きる力にしました。

学校では、子どもの考えをつなげて深い思考ができる授業を行うことで、子どもに自ら学ぶ力をつけています。この深い思考を支えるのが国語力で、体を向けてていねいに話を聞くことをはじめ、ノート検定、音読集会、お話スタンプを続けています。特に日記を書くことから深い思考ができるようになります。

<2年生の日記から抜粋>

きょう、学びゅう目ひょうのグラフを書きました。

はじめは、大きいじゅんばんにならべるだけのことしかおもいつきませんでした。けど、いろいろな人のグラフをしょうかいされるたびに、いろいろな人のおもいつきがあったので、わたしはそれをぜんぶがたいさせました。いろをつけたり、たかさをわかりやすくせんをひいたり、いろいろくみあわせたら、とつてもすごいグラフになりました。

そこで、わたしは、ふとおもいました。わたしはいろいろな人のおもいつきをまぜて、すごいグラフがつくれたのです。それこそ、まえ、校長先生がおはなししてくださった、

「いろといろがくみあわさってあたらしいいろがつくられるように、いろいろな人のいけんがくみあわさると、すごいものができあがる。」

わたしがつくったグラフは、まさにそれなのではないでしょうか。

とてもいいべんきょうになりました。

低学年の子どもではありますが、わたしの話を聞いて受け止めたことを、「とつてもすごいグラフ」を書いた授業と結び付けて考えています。

子どもの日記に目を通すと、話を聞いて考える力を感じます。子どもの日記から読み物を読んだときの論理的思考と言語感覚が伝わります。授業で異なる自分の考えを相手にぶつけて「ものすごいものができあがる」創造的思考も書かれています。考えを書くことで自分を見つめ、考えを確かなものにし、初めは思いもつかなかった発見をします。いつの時代になっても教育とはそういうものだと思います。